	1																					10001600
文書 番号 4402004 ページ 9/25 改訂番号 1	判断する。 危険源に接近する「頻度の判断基準」	tって判断する。 - 5 危険源に接近する「頻度の判断基準」 判断基準 ひんぱんに立入、接近する。(1回/日以上)		調整寺で接近する。(1四/月以上)接近することはめったにない。(1回/年程度)	領度1の解釈注記 ・「頻度1とは、作業中に作業者が危険源に近づく頻度であり、作業そのものの実施頻度では	ない。 お野で「中の宿子(韓元 サスト/中海(十首人)学科的です。 発音 中米フェス	来により応促が3mm小ののい1a減つに場合、対求即に近く知及1a変にする。 例:回転体にカバーを設置した場合、原則として修理・点検のためカバーを外した時に	しか巻き込まれの危険が発生しないので、危険源に接近する頻度は小さくなる。 キギリの結果は、各要素の占数の合計(終合占)で素す。	十 ③頻度		見積もったリスクが許容できる範囲か、あるいは更なるリスク低減対策が必要かどうか表の。 66 「いっ Assact tan ass	「囲命年」を行いて引即する。 「衛害になる「可能性の判断基準」で、「可能性がない(点数0)」と 昨日 4 5 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	ハンケーの中国ヶの。	「リスク評価基準」	評価 直ちに設備、作業等の安全対策を実施又は 作業本語は、 新や社器と中たす 2	F来変更守、首た相直で天彫りの。 対策完了まで管理する。 原本なに計畫 企業的で行く対策が新	・対策完了まで管理する。	・計画的に設備、作業等の安全対策が必要 ・対策完了まで表示し、注意情報を作業者に 周知する。	できるだけ安全対策を考える。リスク内容、注意事項を看板等で明確にす	る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	なれて、メングが立て、「ドボナーは晋中にではして、作業員に周知する。	リスク低減対策の検討と対策後のリスク想定評価 リスク低減対策優先順位の検討 リスク群価の結果、法令に定められた事項とリスクレベルの高いものより優先順位を決 リスク評価の結果、法令によめられた事項とリスクレベルの高いものより優先順位を決 かるが、コスカしべ。が作いまのでまが維が窓里である。
規定	ボ ト こ 5	ひんぱんに立入、持	修理、調整等で時々接近する。(1回/週以上) 修用 調整等で時々接近する。(1回/週以上)	修生、調金寺で接近する。 立入、接近することはめつ	業者が危険源に近づく	サストン十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	めるいは減りに場合、 設置した場合、原則と	の危険が発生しないので、危険ji 冬要素の点数の合計 (総合点)	+ ②可能性		見積もったリスクが許容できる範囲か、あるい。 よのこので、ココム語は甘郷・キ田・・ナギザギナス	10~6の「リスク評価部件」を招いて判断する。 なお、おりの4年、災害になる「可能性の判断基準」で、「可能1 11間、七根の1年・報告は上語作士のより単一」、メニュレ部所子と	銀反もし后の女子の	9-1	対応・直ちに対策・直も		優先的に対 対策策を要す。	計画的に対 ・対策 策を要す。 問知	びき対策を考慮・リス	-	許容できる 作業	(4) リスク低減対策の検討と対策後のリスク想定評価(3) リスク低減対策優先順位の検討 リスク低減対策優先に立められて事項とリスク評価の結果、法令に定められた事項とリルスが、コスカーパーが無いまのホまが業が容易
スパント	近する頻度 5の基準に従っ 表10-		ო ი	7 -	作業中に作	公语 4% 经产业	東派が離小にカバーを	込まれの危 単は、各型)重篤度		スクが許容	へつ 計 首 歩 一 4 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	無湯及り		1×2		2		=		_	策の検討と 策優先順(の結果、法
リスクアセスメント規定	前 危険源に接近する頻度 表 10 - 5の基準に 表 10	区別ひんぱん	時々サーギー	めったに無い ほとんど無い	「頻度」の解釈注記・「頻度」とは、 4	ない。	- 対策しより応服例: 回転体(しか巻き込まれ(②) 貝秸キ,りの結果は、		(3) リスクの評価	見積もったリス	- 0 - 6 の - リインピなお、表 10 - 4	上型 しいをロらく		40000000000000000000000000000000000000	H X 0 -	13~15	9~12	8 ~ 9		5以下) リスク低減対策の検討と対策後の (j) リスク低減対策優先順位の検討 リスク評価の結果、法令に定め カスケ ドロストルベルが作いまん
		····															39 (8)	· V	8			
以 記	444	<						4			<1											
1	ববব	◁						△	<		◁							· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
402004 改訂番号 1		◁			伴う災害	ない災害			<	□ 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	□ □				くることが		。 二手が届く	71.24		こより、災		
8/25 改訂番号 1					は後遺症を伴う災害	遺症の残らない災害	災害			11 米謝			判断基準」		る。 I険領域に入ることが		1	しながる。 新式ファント:マオ	`	より、		
書番号4402004ージ8/25改訂番号1			判断基準	伴う災害	し) が必要又は後遺症を伴う災害	F) するが後遺症の残らない災害	勒が可能な災害			1冊以上2m未満 1m未満			「可能性の判断基準」	(基準	も災害になる。 ギ、容易に危険領域に入ることが	0.00	1	ると災害につながる。 いん等の対策がレミセアにそれ	いった。	より、		
文書番号 4402004 ページ 8/25 改訂番号 1	- 3の基準を目安とする。 割以上とする。		3 1	死亡又は重度の後遺症を伴う災害	入院や自宅療養 (30 日以上) が必要又は後遺症を伴う災害	入院や自宅療養 (30 日以下) するが後遺症の残らない災害	病院で治療後、自力で出勤が可能な災害	会社で薬などにて処置し、病院に行く必要がないケガ	墜落・転落による重篤度の判断基準	11 米謝			こんのこれ的する。 表10-4 災害になる「可能性の判断基準」	判断基準	/なり注意力を高めていても災害になる。 全対策が実施されておらず、容易に危険領域に入ることが * - *	できる。 通の注意力では災害になる。	1	危険が残る。シカリ・ボンケリしたいると災害にしながる。シカリ・ボンケリしたいると災害にしながる。	能の管理が必要。 験要因、作業自体が無くなった。	より、	ひり時に上が飛じな水路。	
8 4 4 4 0 2 0 0 4 8 7 2 5 改訂番号 1	:目安とする。	:薬 (中等傷) 以上とする。 「重篤度の判断基準」	3 1	10 死亡又は重度の後遺症を伴う災害	8 入院や自宅療養 (30 日以上) が必要又は後遺症を伴う災害	4 入院や自宅療養 (30 日以下) するが後遺症の残らない災害	2 病院で治療後、自力で出動が可能な災害			2m以上4m未満 1m以上2m未満 1m未満	4 2 1	次書になる可能性 = 1 の - 4 の世間に 3 - 7 - mmst + 7	+の金年に促って刊町する。 表10-4 災害になる「可能性の判断基準」	点数 判断基準	注意力を高めていても災害になる。 食が実施されておらず、容易に危険領域に入る	できる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	こができる。可動範囲に	らながる。	機能の管理が必要。		はC H RELYが無いた場。	

4

無い

低い

改訂

致命傷

0000

区別

極めて 過じ

(1) 災害になる可能性

画に

ある

画さ (m) 重篤度

不休 (軽傷)

微傷

休業(中等傷) 休業 (重傷)

₩ ⊢	T					
402004改改訂番号1訂	7化 局所排気装置、防音囲 装置、非常停止装置等 露管理、教育訓練等	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	複数検討し、そ △	:、リスク低減対 に及ぼす影響を セスメント実施	のリスク低減が 1し、作業者に関 作業者に徹底す 作業者に徹底する。 で、担当部署員 確認する。	5の実施により評 5及びその他の有 して「帳票番号 (境測定を実施す
文書番号 4. ページ 10/25	L、代替化の使用中止又は代替化インターロック、局所排复転数低減、自動停止装置、消立入禁止措置、ばく露管理、	.とができず、除去ある	踏まえながら具体的な低減対策を複数参考2に衛生に関する対策例を示す。 記入する。 る。	画を立て実施する。また 効果や作業性・生産性等 合には、新たにリスクア	どで、現状ではそれ以上 その内容を備者欄に記載 作書の遵守などの措置を が性を確認 りの際に起き易いことか の有効性を巡視等により	ついては、作業環境測点 路付けられている作業は 1一覧表を参照するなど 作成し、計画的に作業類
リスクアセスメント規定	会計する な作業・原材料の廃」 変更 5い化学物質、原材料 5変更、等 ・安全囲い、遠蔽板 ・安全囲い、遠蔽板 で変更、回転体の回	Mルー4.個人用床 <u>破臭の使用</u> ・安全帯、防護マスク、防護衣、耳栓等 但し、順位一3までの措置を十分に講ずることができず、除去あるいは低減しきれなかったリスクに限られる。	用対効果を る。 成対策例、 実施期日を 領で実施す	リスク化薬対策の実施と実施後のリスク評価 対策素が決定したら、実施担当者は具体的な計画を立て実施する。また、リスク低減対 策実施後には、再度リスク評価を行い、想定した効果や作業性・生産性等に及ぼす影響を 確認する。尚、対策後に新たな危険源が生じた場合には、新たにリスクアセスメント実施 報告書に記入し、対策の立案から繰り返す。	リスク低減対策を実施しても、技術上の問題などで、現状ではそれ以上のリスク低減ができない場合は、残存リスクへの対応を検討し、その内容を備考欄に記載し、作業者に同てきない場合は、必要な保護具の使用、作業標準書の遵守などの措置を作業者に徹底する。 る。 設備設置あるいは、変更後のリスク低減対策の有効性を確認 事故は設備並びに作業が設置・変更されたばかりの際に起き易いことから、担当部署員及び安全衛生課員は設置・変更後にリスク低減策の有効性を確認	慢性疾病を対象としたリスクアセスメント実施手順 化学物質、粉じん、騒音等による慢性的な健康障害については、作業環境測定の実施により評 リリスク 低減対策を実施する。 1)有害性の特定 〇 H & S 事務局は、法で作業環境測定の実施が義務付けられている作業場及びその他の有 害物を取り扱う作業場について、危険・有害性抽出一覧表を参照するなどして「帳票番号 4402004-F 作業環境測定実施計画表」(別紙4)を作成し、計画的に作業環境測定を実施することにより有害性を特定する。
ሀスクアセ	② リスク低減対策案の検討 次に掲げる優先順位です 原位-1 危険、有書 ・ 危険な作業の廃止・ ・ 安全な施工方法への 順位-2 工学的対策 ・ 安全神、安全カバー ル、工程の運転条件 順位-3 管理的対策 ・ 表金・標識、整告が ・ 表示、標識、警告が	順位 — 4 個人用 ・安全帯、防護 但し、順位 — なかったリスク	6 茶 茶 :	(5) リメク性薬対策の実 対策案が決定した 策実施後には、再度 確認する。 歯、対策 機告書に記入し、対 機合書に記入し、対 (6) 課窓コスクへの対示 (7) 課窓コスクへの対示	で知る説 及	11. 慢性疾病を対象としたリスクアセン 化学物質、粉じん、騒音等による値面しリスク低減対策を実施する。 (1) 有害性の特定 O H&S事務局は、法で作業環害物を取り扱う作業場について、4402004-F 作業環境測定実施計ることにより有害性を特定する。

改訂	ľ		444	44			000000000000000000000000000000000000000
4 -			"		の評価 乗番号 後 (徳)	くるのがまない。	
402004改訂番号		準 作業環境を改善する 保護具を使用する。 に対策を実施する。	第1管理区分 無の実施に努める。又、測定値が第2管理区分に近い場合は対 集の実施に努める。 リスク低減対策の実施 〇H&S事務局は評価結果に基づき、「帳票番号 4402004-C 作業環境改善指導・回答書」 (別紙5)を発行し、作業場を管理する部署に是正を求める。該当部署は是正措置を講じ(予	皂施後の評価 再度作業環境測定を実施し、作業環境測定評価基準により評価する。評価区分が下がらな場合は次の対策を講じ、効果が確認されるまで繰り返す。 制定結果の記錄 作業環境測定結果記錄する。	・重大リスク作業の台帳管理 のH&S事務局は、各部署から提出された「リスクアセスメント実施報告書」の現状での評価 レベルがIV、Vのリスクをび作業環境測定の結果が第3管理区分のものをそれぞれ「帳票番号 4402004-D 重大なリスク管理台帳」(別紙6)、「帳票番号 4402004-E 重大なリスク管理台帳(幔性疾病)」(別紙7)にまとめ、改善計画、実施状況の進捗を管理し安全衛生委員会で報告する。	スクの対策完了までの暫定措置 レベル収、Vについて、リスク低減対策が完了する、あるいはリスクレベル 作業の変更、作業者への危険性の周知などの暫定措置を速やかに講じる。ま が定期に記入を要請する「帳票番号:440204-D-2 重大なリスクへの対策 紙8)の「進捗状況」欄に暫定措置内容を記入する。	
25 2		環境を引きを使用する。	に近い 環境改善 署は是可	5。評価	報告書」をそれ たなリス 衛生委員		
中 -		評価基準 名容 名検し、作業環境を改善す 有効な保護具を使用する 計画的に対策を実施する	●理区分 -C 作業] ・該当部	評価する	ト実施 分のもの 4-E 重力 Eし安全(:了する、 暫定措置 04-D-2 入する。	
を書いています。			測定値が第2管理区分に近い場合は対 調定値が第2管理区分に近い場合は対 で発号 4402004-C 作業環境改善指導・E-是正を求める。該当部署は是正措置を言った提出する。	準によりり返す。	セスメン 3 管理区: 号 440200 捗を管理	、レベルⅣ、Vのリスクの対策完了までの暫定措置各部署は、リスクレベルⅣ、Vについて、リスク低減対策が完了する、国に低減するまで、作業の変更、作業者への危険性の周知などの暫定措置た、OH&S事務局が定期に記入を要請する「帳票番号・4402044-0-2進捗管理台帳」(別紙8)の「進捗状況」欄に暫定措置内容を記入する。	
K Y		によるリ 措 置 作業方法: 近する。 Σ 5を点検 L	測定値 票番号 に是正名 局へ提出	部価基25まで繰	1スクア- 果が第3 帳票番号 状況の進	指置 くク 低減さ さ性の周分 長票番号 定措置が	
	1害性の評価 有害性は表11-1に示す基準で評価する。	-1 作業環境測定によるリス・ 措置 直ちに施設、設備、作業方法をよため必要な措置を実施する。又、 施設、設備、作業方法を点検し、	現状を維持する。又、測定値が第2 策の実施に努める。 実施 実施 は評価結果に基づき、「帳票番号 440200 、作業場を管理する部署に是正を求める 是正回答をOH&S事務局へ提出する。	実施後の評価 再度作業環境測定を実施し、作業環境測定評価基準により い場合は次の対策を講じ、効果が確認されるまで繰り返す。 測定結果の記錄 作業環境測定結果記錄表に記錄する。	れた「J, 側定の結 既6)、「 ぼを)、「	Vのリスクの対策完了までの暫定措置 リスクレベルV、Vについて、リスク・ まで、作業の変更、作業者への危険性 事務局が定期に記入を要請する「帳票 1、別紙8)の「進捗状況」欄に暫定計	
見定	す基準で	-1 作業班 直ちに施設、 ため必要な措 施設、設備、	現状を維持する。) 策の実施に努める。 を を 信 を を は 関 を は 関 を は り は り は り は り は り は り は り は り は り は	臭施後の評価 再度作業環境測定を実施し、作業環 場合は次の対策を講じ、効果が確認 別定結果の記錄 作業環境測定結果記錄表に記錄する。	ら提出さ 業環境 展」(別) 改善計画	完了まで Vについ、 作業者 入を要請 入を要請 も	
い法	11元宗	11-1 	東の野産の関係では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	を実施 :講じ、: 記録表に	長管理・部署かり及び作り管理台にません。	の対策、 ドルIV、、 その変更、 と関に記算に記	
リスクアセスメント規定	高	妻 評価 管理区分 管理区分	第1管理区分 第1000 リスク低減対策の実施 〇H&S事務局は評価 (別紙5)を発行し、作 (別紙5)を発行し、作	f面 環境測定 の対策を の対策を の対策を 関定結果	重大リスク作業の台帳管理 〇H&S事務局は、各部署。 ベルがIV、Vのリスク及び 02004-D 重大なリスク管理 疾病)」(別紙7) にまとめ	の リスクスクレス イクレス イクレス () 作業 然 () が ()	
177	有害性の評価 有害性は表 1	無 無 無 無 無 無	第1管理区分 リスク低減対策の OH&S事務局に (別紙5)を発行し (別紙5)を発行し	実施後の評価 再度作業環境 は場合は次の対別 測定結果の記録 作業環境測定結	Jスク作 v.S 事務 がIV、V -D 重大 J (別紙	レベルIV、Vのリ 各部署は、リスク 国に低減するまで、 た、OH&S事務局 進捗管理台帳」(別)	
	(2) 有	Lada	(3) (2) (3) (3) (4) (4) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6	(4) (4) (2) (2) (2) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4		レベルIV、 を部署は、 国に所談する た、 O H & S 維捗管理台帳	
				1 2000 COLUMN	. 74 類	. 日女樹	

危険性ま	たは有る	害性等の記	調査・リフ	スクアセスメ	ント実力	施報台	書	安衛管	安管	安推
. —	·· · · ·						-			
1. 実施	年月日		年 月	日()			L			
2. 実施	者			G·7	氏名					
3. リス:	ク抽出方法	(1) 特別5	-ੋ−マ :	① 気がかり作	業					
		(2) 一般ラ		①安全衛生バ				業(非定常		
			小外活動	④ 危険予知活			害事例検討	6 定常	作業	,
A #2.17\$	州士たけ左	A STATE OF THE PARTY OF THE PAR	基準書	⑧作業環境測 ※	止相未	⑨ その	グ1世()
4. 厄陕	はよべる名	害性等の調	直項日,內	<u>A</u>						
										•
1										
5. リス:	ク評価									
	大きさ	障害が起	こる可能性	作業绩	画度	その他	b縣念	評価点合計	112	クレベル
程度	評価点A	程度	評価点B	程度	評価点C	程度	評価点D	A+B+C+D		~IV
致命傷	1 0	極めて高い	6	頻繁	3	懸念	,			
重大災害	5	高い	3	ときどき	2	あり	1			
中度災害	3	ある	1	まれに	1	懸念	0			40-
軽度災害	1	ほとんどない	١ 0	ほとんどない	0	なし		<u> </u>	<u>L</u>	
リスクレイ		点合計	評価	対策の考え方						
IV III			できない	禁止作業化、固定	ピガードによる	5完全隔	雖、二重三重	の安全対策等、		
			は問題あり がある	非定常作業管理、可動部への侵入防	いが第一イン	ノターロ	ック 緊急値	いトフィッチ		
1			できる	現地への危険防止						
6. JZ	ク評価に基	づく対策	***************************************							
7 対策	後のフォロ									
	ナロー実施			年 月	日()					
(2)実施		-т/зн				Ż,				
1,000	モ 後のリス	ク評価					-			
障害の	大きさ	障害が起こ	る可能性	作業頻		その他懸念		評価点合計	リスク	レベル
程度	評価点A	程度	評価点B	程度	評価点C	程度	評価点D	A+B+C+		~IV
								D		
致命傷	10	極めて高い	6	頻繁	3	懸念	1			
重大災害	5	高い	3	ときどき	2	あり				
中度災害軽度災害	3 1	ある ほとんどない	0	まれに	0	懸念なし	0			
		のコメント	1 0	ほとんどない	U	120				
(4) 23		クコハント				****				
<u></u>				nomental and a second					water a pro-	
8. 専門的	り知識を有る	する者の助言	等							
									A SERVICE CONTRACTOR	
1										